

第39回

全日本教職員連盟教育研究全国大会 (栃木大会)

【第5分科会】 学校マネジメント

分科会テーマ

学校における働き方改革の達成と
「社会に開かれた教育課程」の実現

提案テーマ

学校における働き方改革 ～時間予算ワークショップの実践～



令和4年7月30日（日）

栃木県学校管理職員協議会

提案者 宇都宮市立国本中学校 瓦井 康司

もくじ

はじめに

- ・国本中学校学校概要
- ・国本中学校紹介

- 1 提案のテーマ
- 2 提案の趣旨
学校における働き方改革



学校祭・壁画作成《繋いだ輪》

3 提案内容

- ① 令和2年度業務改善推進者研修の内容について
- ② 残業さえ減ればいい？ 学校の働き方改革の目的は？
- ③ 働き方改革の基礎知識
- ④ 時間予算ワークショップ（学校を元気に！）の実際・・・事例紹介
- ⑤ だれのための仕事？ 生きることを支えているものは何か？

4 成果と課題

小さな一歩でいい



当事者性が大切

自分一人で石を
持ち上げる気が無いのなら、
二人がかりでも石は
持ち上がらない。

(ドイツ作家:ゲーテ)

2 合目まで行ったから見えてくる景色がある



1 沿革の概要

昭和22年	4月	栃木県河内郡国本村立国本中学校創立
昭和23年	12月	平屋建て校舎竣工（旧前校舎）
昭和29年	11月	市町村合併により宇都宮市立国本中学校に改称
昭和38年	8月	プール竣工・校旗樹立・校章改
昭和51年	2月	立志の森開園・立志の碑竣工
昭和51年	11月	創立30周年記念式
昭和55年	1月	新校舎落成記念式
昭和56年	1月	栃木県学校環境緑化コンクールで優秀賞受賞
昭和57年	5月	全国学校環境緑化コンクールで特選受賞（全日本第一位）
昭和57年	12月	技術棟新築完成
昭和62年	11月	学校基本調査の部で文部大臣賞受賞
昭和63年	11月	宇都宮市教委指定「学校経営」研究発表会・主題「生徒の創意が生きる学校づくり」
平成4年	12月	宇都宮市教育委員会指定「児童・生徒指導研究発表会」を小中合同で開催
平成5年	4月	宇都宮市教育委員会指定「高齢者福祉教育」助成校
平成6年	4月	宇都宮市教育委員会指定「特色ある学校づくり」助成校
平成7年	10月	プール周辺改築工事
平成9年	11月	創立50周年記念式典
平成12年	7月	屋内冷房機設置（職員室・保健室）
平成13年	11月	宇都宮市教委指定「性に関する指導」モデル校・研究授業・産婦人科医による講話
平成14年	2月	栃木県学校給食優良学校受賞
平成15年	10月	文部科学大臣学校給食優良学校受賞
平成16年	3月	武道場新築工事完了
平成18年	2月	体育館新築工事完了
平成20年	3月	創立60周年記念誌発刊
平成23年	4月	宇都宮市教育委員会指定「授業力向上プロジェクト研究学校」
平成24年	9月	アルミ缶回収・車椅子寄贈等のボランティア活動で厚生労働大臣感謝状受賞
平成27年	1月	車椅子を敬祥園に寄贈
平成27年	11月	国本奨学会表彰、KLC 国本リーダーズクラブ表彰（宇都宮市教育委員会）
平成28年	11月	手もみ製茶保存会表彰（宇都宮市教育委員会）
平成29年	11月	創立70周年記念音楽会
平成30年	9月	1階トイレ洋式化改修工事完了
令和2年	3月	テニスコート整地
令和3年	6月	体育館冷房設置工事
令和3年	7月	校舎3Fトイレ・給食室トイレ洋式に改修工事

2 環境と通学区

(1) 自然・社会環境

宇都宮市の北西部に位置し、国道119号線（日光街道）・北部から西部にかけて国道293号線が通り、その中間に、国道の間道としての新里街道が地区の中央を通っている。

鞍掛山を背景に本校の周辺は、緑豊かな環境に恵まれているが、日光街道沿いの宝木本町野沢町は宅地造成が進み、近郊市街地に変貌している。国道293号線と新里街道の交差点（学校より北に約2キロ）に、市のレジャー施設「ろまんちっく村」があり、観光客でにぎわっている。また、国本西小学校区域を中心とした純農村地帯は、新里ネギの産地として有名である。

(2) 教育の文化環境

本校入学区の小学校は、国本西小、国本中央小、晃宝小が学区になっており、通学距離は約4km強である。地区は28の自治会で組織され、地区作り振興会を中心に、青少年育成会、地区体協、青年団等組織活動が活発である。

保護者は、学校教育に協力的である。特に体育祭・学校祭・ボランティア活動・本校教育の特色でもある茶摘み等は、積極的に保護者が参加し、親子のふれあい行事となっている。

(3) 安全環境

全地域にわたり農道が舗装されているが、直線道路が少なく道幅も狭いところが多く、そこを通学路として利用する生徒も多い。本校では、自転車通学を希望する生徒には許可をしており、全校生徒の約99%が自転車で通学している。

地区内の中央を通る新里街道は、近年今市市に抜ける鞍掛トンネルの開通により、国道を避けて入線する自動車も多く、朝夕の通勤時間を含め車の通行量が大幅に増加している。また、東北自動車道が走っており、その側道を通る車も多いので、朝の登校指導は随時行っている。



【創立時の校舎】



【創立70周年記念航空写真】



【令和3年国本中校門の桜】

3 学校経営

○教育目標

(1) 基本目標 人間尊重の精神を基盤に、やさしい心とたくましい気力・体力をもち、社会の発展に貢献できる人間を育成する。

(2) 具体目標（具体的な生徒像など）

- | | |
|------------------|--------------------|
| ① 健康で意志の強い生徒 | (健康教育の推進) |
| ② 自ら学び創造力のある生徒 | (自己教育力の育成) |
| ③ 心情豊かで思いやりのある生徒 | (心の教育の推進) |
| ④ 勤労を愛し実践力のある生徒 | (文化や伝統の継承と勤労精神の涵養) |

○学校経営の理念

人権尊重の精神を基盤として、確かな学力、豊かな人間性、健康や体力など、変化の激しい社会を生きるために必要となる「生きる力」を確実に身に付けさせる指導に力を入れ、『生徒・職員が共に成長できる学校』を目指す。そのために、人間力の形成に向けて、全教育活動を通じて、「ほめて伸ばす指導（自己存在感・自己肯定感・自己有用感など自尊感情を育む指導）」の充実を図り、自信と誇りをもって生き生きと学校生活を送る生徒を育成していく。

さらに、義務教育9年間を通して児童生徒の能力・態度等を育成していく観点から、小学校との連携を十分に図った小中一貫教育を推進するとともに、本校の伝統でもある地域に根ざした特色ある教育活動を一層推進していく。こうした教育活動がより効果的に実践されるよう、学校における働き方改革を推進し、業務の効率化や労働時間の適正化を図る。

○学校経営の方針

【国本地域学校園教育ビジョン】

「自ら学び 心豊かで 元気な国本っ子」 ～地域とともにある学校をめざして～

- (1) 「生徒が明るく、いきいきと活動する学校」づくりに努める。
- (2) 生徒理解に基づいた生徒指導の充実を努める。
- (3) 学習において、基礎・基本の定着を図るとともに、生徒を認め生かす授業の工夫に努める。
「とちぎっ子学力アッププロジェクト」生徒の学力アップにつながる研修に努める。
「道徳教育の充実」「主体的・対話的で深い学び」への授業改善に努める。
（「宇都宮モデル」の活用）
- (4) 基本的な生活習慣と規範意識の育成に努める。
- (5) 教職員が課題を共有し、協働して教育活動に当たれる職場づくりに努める。
- (6) 学校、家庭、地域の連携を深め特色ある学校づくりを推進する。
- (7) 教職員の働き方に関すること ① 勤務時間を意識するとともに業務の効率化を図る。
② 勤務時間の管理及び部活動指導ガイドラインの順守

○教育課程編成の方針

- (1) 関連する法令と学習指導要領の示すところに従って編成する。
- (2) 校長の学校経営方針のもと、教育目標の実現を図るために編成する。
- (3) 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスのとれた育成を通して、「生きる力」の醸成を目指して編成する。
- (4) 各教科・領域の指導に当たっては、生徒が学習内容を確実に身に付けることができるように生徒の実態に応じ、個別指導やグループ指導、学習内容の習熟度に応じた指導など、個に応じた分かる授業の展開に努める。
- (5) 人間として調和のとれた生徒の育成を目指し、心身の発達段階の特性を考慮して編成する。特に「特別の教科道徳」の研修を、全職員の協力のもと、計画的に行うことにより、道徳教育を充実させ、生徒の道徳性を育てる。
- (6) 地域や学校の実態を考慮し、「特色ある学校づくり」の基盤となるように編成する。
- (7) 全教職員の参画と教師同士の連携・協力によって編成する。

○今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

- (1) 学校運営 ○いきいきと学習活動等に主体的に取り組む生徒の育成
- (2) 学習指導 ○生徒を認め生かす授業を展開し、学びに向かう力をもつ生徒の育成
- (3) 生徒指導 ○ルールやマナーを守り、正しい判断力に基づいた行動のできる生徒の育成
- (4) 健康 ○自ら健康・体力の向上に努め、心身ともに健康でたくましい生徒の育成

○特色ある学校づくり等に関する取組

- (1) 育てたい資質・能力
 - ① 自主的にものごとに取り組む態度の育成
 - ② 互いを認め合い、他人を思いやる豊かな心の育成
- (2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）
 - ① 自主的にものごとに取り組む態度の育成
 - ・地域の育成会行事等への参加・・・国本チャレンジウォーク、くにもとクリーン大作戦など
 - ・キャリア教育の推進・・・各種出前講座の活用、宮っ子チャレンジウィークなど
 - ② 互いを認め合い、他人を思いやる豊かな心の育
 - ・体験的な活動・・・◇学級花壇の整備（1年）、学校農園体験活動（2年）
 - ・高齢者との交流活動・・・◇福祉施設の訪問活動（吹奏楽部）、高齢者疑似体験（1年）

○本市の重点施策・事業と関連する取組

- (1) 「地域とともにある学校づくり」に関する取組
 - ① 基本的考え
本校は創立以来、地域の理解と協力を得ながら特色ある活動を行ってきた。地域の本校に対する期待も大きい。豊かな地域資源を活用した教育を行うことで、地域に根差した地域に貢献できる人材づくりを行っていく。また地域行事には可能な限り協力していく。
 - ② 主な取組 ・国中ウォークラリー ・くにもとクリーン大作戦 ・KLC活動 など
- (2) 「小中一貫教育・地域学校園」に関する取組
 - ① 基本的考え
小中一貫教育のビジョンを達成するために、学校園内の教職員及び児童生徒が相互に交流する機会を多く設ける。また小中一貫カリキュラムを実施することで、あらゆる教育活動（学習及び児童生徒指導等）を通して児童生徒を育成するための共通理解を図る。
 - ② 主な取組 ・あいさつ運動（生徒会・児童会） ・教師の授業交流（小中間相互乗り入れ授業）
・事務長、養護教諭、学校栄養士、図書司書の協力体制強化
・小中一貫カリキュラムの実施
- (3) 不登校対策
 - ① 基本的考え
全学年に不登校生徒がいるので、学校復帰に向けた組織的な支援を行うとともに不登校生徒を出さないよう生徒にとって居がいのある学校・学年・学級づくりに努める。
 - ② 主な取組 ・生徒指導部会及び教育相談部会での情報共有と対策の立案
・欠席状況共有シートの活用 ・初期対応の充実
・S C及び関係機関との連携 ・職員研修の充実

4 学級編制・生徒数（令和4年度）

学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援学級		合 計
				知的	言語	
学 級 数	4	4	4	2	1	15
男 子	70	60	63	3	0	193
女 子	58	75	70	8	4	203
合 計	128	135	133	11	4	396

国本中紹介

I 「茶摘み・製茶の様子」



「茶摘み」は、国本中の伝統的な行事で50年以上継続して行われています。地域協議会には、「手もみ製茶保存会」があり、その方々の指導・アドバイスの上、毎年、5月上旬に地域の方々と一緒に「茶摘み・製茶」を体験しています。

下記、「茶摘み・製茶」の手順

【茶摘み】→【茶葉の選別】→【茶葉を蒸す】→【茶葉を揉む】→【茶を乾かす】

II 「学校祭時に学級ごとの壁画作成」



壁画の作成は、毎年秋に行う、学校祭時に行われます。例えば、令和2年度のテーマは「SMILE」でした。そのテーマに沿った図案を各クラスで考え制作し、学校祭時に発表会を行います。コンテスト形式なので、各クラス競い合うのですが、制作過程の中で協力し合って仕上げるところに有意義な時間を過ごしています。この制作した各クラスの壁画は、学校の側道である新里街道沿いの石塀に飾られ、地域の方々に披露します。地域の方々にもおなじみの風景となっています。

1 提案テーマ

学校における働き方改革 ～時間予算ワークショップの実践～

2 提案趣旨

これまで宇都宮市では教職員の働き方改革として、「生徒と向き合う時間の充実に向けたアクションプラン」などに基づく、様々な負担軽減の取組を行っている。目的は、教職員が健康で生き生きとやりがいを持って勤務し、質の高い教育を行うことにあるが、その実現のため、より具体的な自校化された業務改善、教職員の意識改革等、学校のマネジメント力の強化を図る「学校における働き方改革」の推進が必須となる。そこでこの提案は、栃木県教育委員会が行った「業務改善推進者研修」に参加して学んだ内容を自校で試みた、その成果を中心に提案するものである。

3 提案内容

次ページより

学校における働き方改革の達成

時間予算ワークショップの実践

栃木県宇都宮市立国本中学校

令和2年度「業務改善研修」に参加して

- ・研修者（県内から20人、教頭、教諭、主幹教諭、事務長）
県内小学校から7人・・・上三川小、鹿沼北小、芳賀南小、
壬生町安塚小、那須烏山江川小、
大田原小、佐野城北小
- 県内中学校から7人・・・国本中、今市中、益子田野中、
石橋中、塩谷中、那須中央中、山辺中
- 県内県立校から6人・・・宇都宮白楊高、上三川高、栃木翔南高、
黒磯南高、のざわ特別支援学校、
足利中央特別支援学校

令和2年度 業務改善研修の内容

研修は全てオンラインで実施する。
(Google Meet)

回数	期日	主な内容
第1回	9月10日(木)	研修に対する不安や疑問を共有し、解消を図る
第2回	10月2日(金)	取り組む課題の見当をつけ、実践の見通しをもつ
第3回	11月27日(金)	実践の途中経過を報告し合い、計画を修正する
第4回	12月18日(金)	実践の途中経過を報告し合い、計画を修正する
第5回	1月28日(木)	効果的な伝え方を学び、実践報告会の準備をする
第6回	2月19日(金)	実践報告会(公開)

残業さえ減ればいい？

学校の働き方改革の目的は？

目的は 未来を据えて教育の質を上げること

↓ 学校の資本は教職員、その教職員が元気に働けるためには

そのために教員に必要なこと3つ

(A) 心と時間の余裕

(B) 仕事のやりがいとチーム力

(C) 私生活の充実でインプットとリラックス

→ 一人一人が可能性を発揮した元気な学校へ

時間の余裕に焦点をあてる

教職員の時間は3つに分けられる

- 1 子ども(児童生徒)がいる時間
- 2 朝・放課後・部活動後
- 3 私生活

先生に余裕ができると
どうなるか？

働き方改革の目的は学校教育の質の向上

余裕ができることで

- ・子どもと向き合う時間
- ・新しい教育創造へのチャレンジ
- ・教職員の心身の健康増進

これらを生み出し、教育の質を上げる

元気な学校実現へ 3つの「助」

- ・自助 (個人)
- ・共助 (身内・チーム)
- ・公助 (公)

事例「給食時間に打ち合わせがしたい」発の交代給食

①やってみよう！！と盛り上がり実施

①どよーん・・・上手いかなかった。

・教室が気になる担任 と 日頃の指導が分からないので困る担任外
→「こんなの難しい」「前のままでいい」

②でも、目的があったからやろうと思ったんだよね？

何のために交代給食を実施したかったの？

・子どもと少し離れることで、午後の関わりの質が上がる
・単純にゆっくり食べたい ・集中して仕事をする時間が少しでも欲しい
・他の教室の様子を見てみたい など
→目的は人によって違う。それぞれを叶える手段は交代給食以外でもいい。
じゃあ どうする？

③交代給食で叶うことが沢山ある。工夫すればできるんじゃ・・・アイデアが出始めた。

・1年生のうちにしつける。 ・給食委員会で統一行程を考える

・窮屈にならないように、最低限の統一ラインを考えよう

・子どもの自立であり、教職員の価値観の共有になる、という気づき！

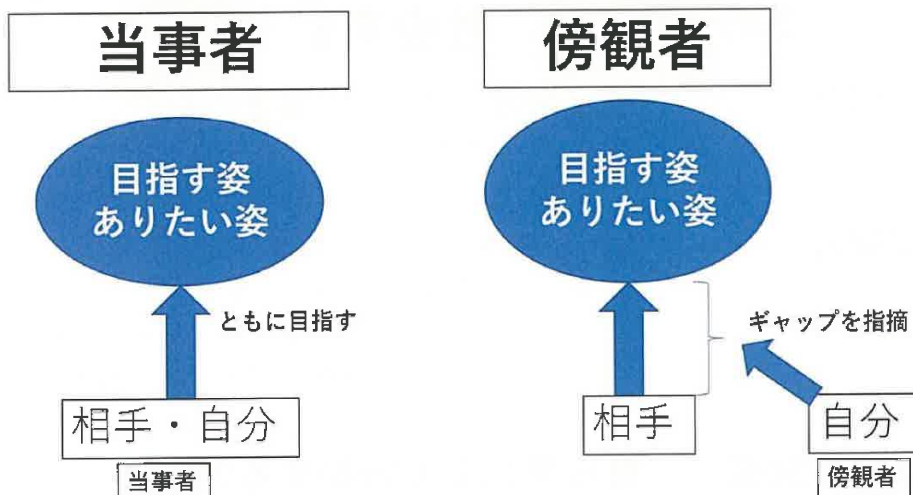
知恵を出し合う教員集団へ！

こうしたプロセスを体験することが業務改善者（推進者）の大切な役割です。

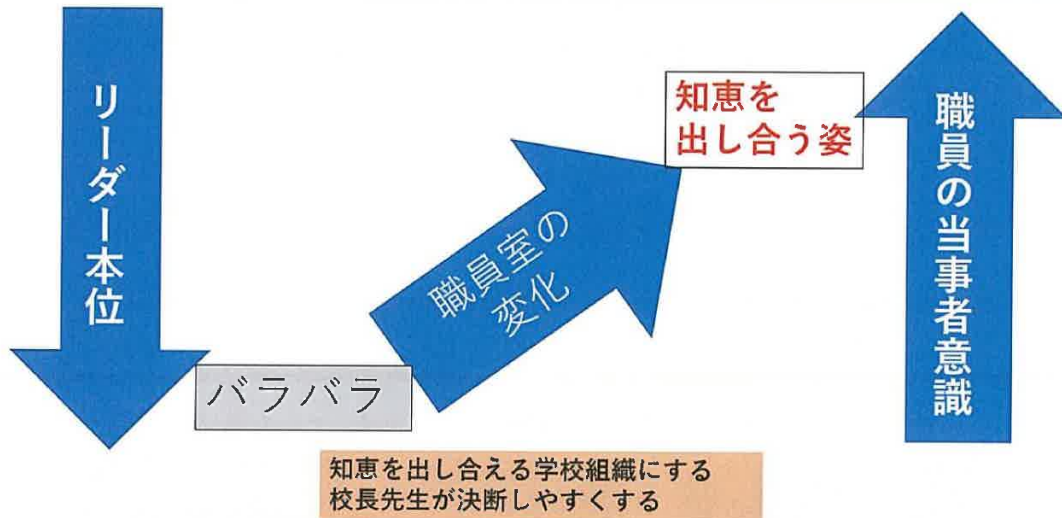
働き方改革の基礎知識

校内に増やす
当事者を一人でも多く

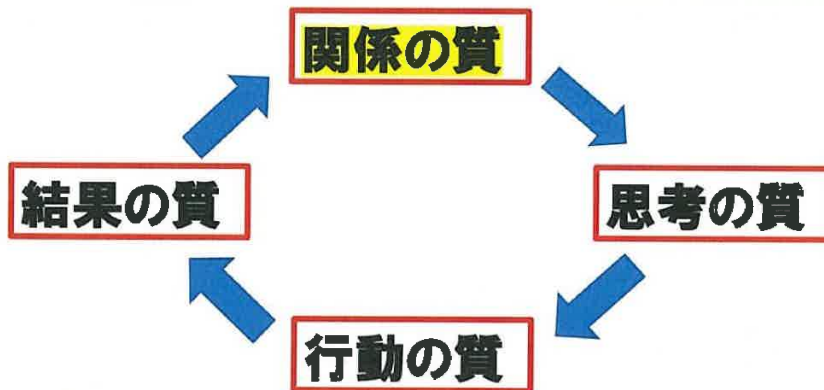
当事者と傍観者



トップダウンとボトムアップの両方とも大切



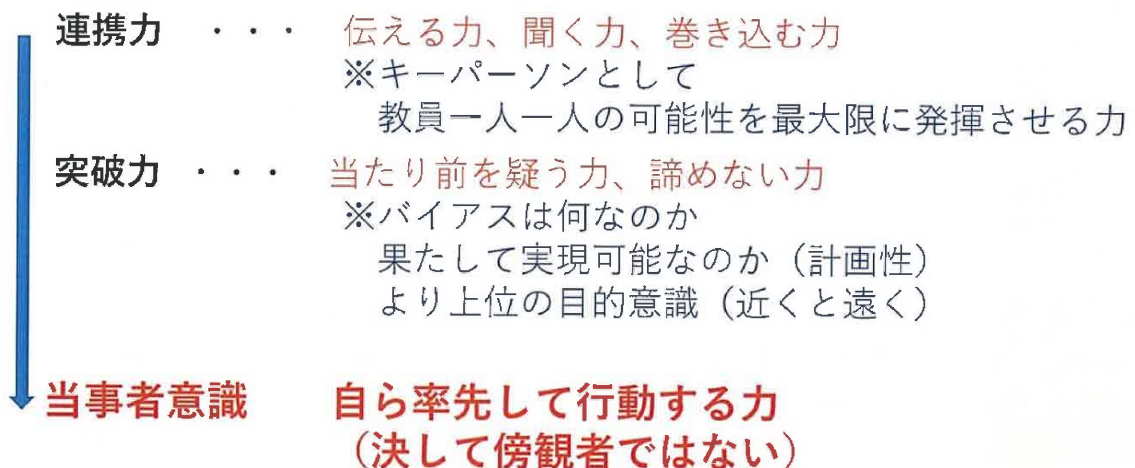
体質改善と対症療法を効果的に！



関係の質から始めることが、組織・集団の成功をもたらす

(マサチューセッツ工科大学) ダニエルキム氏『組織の成功環境モデル』より

学校を変え、社会を変える力



- ・自校の業務改善であること
当たり前だが、自校の状況に合わせて取り組むことが第一優先。
- ・形骸化した周りに合わせる形式的な改善では本質的ではない。

保護者・地域・仲間（同僚）
を大切に！



今・話題にしたいこと
問いや気づき

オフサイトミーティング

オフサイトミーティングとは、“普段の職場や現場からあえて離れた場所でミーティング
をすること”です。

海が見える会議室や芝生の上、湖の近くなど、いつもとは違う非日常な環境に身を置いて
ディスカッションをしたり、仕事をするのがオフサイトミーティングの醍醐味と
なっています。堅苦しい会議室を抜け出し、開放的な空間でオフサイトミーティングを
行なえば、より活発な意見交換ができるはずです！

時間予算ワークショップ

学校を元気に！

時間予算WSの目的：

→明日からの時間とチームワークを生む

時間予算WSとは

時間の使い方を、一人ではなくチームで考えることで、
時間の使い方の幅を広げ、

よりよい学校を作ることのできるWS。

1人だと7時間45分 2人だと15時間30分

3人だと…

開発者：先生の幸せ研究所澤田・横浜市学校事務職員上部

時間予算WSの効果

①現状に目を向けて、自分を俯瞰できる。

②普段、それぞれが思っている

「こうした方がいいのに」というアイデアを存分
に出しあえる。しかも実行に移せる。

③多様な考えを知り、新たな解決策に気づく

開発者：先生の幸せ研究所澤田・横浜市学校事務職員上部

時間予算ワークショップ開始

やりたいことを
限られた時間の中で
実現するには！？



- ①知恵を出し合う
- ②実行することを決める

お題

1人だと7時間45分だけど、
2人なら15時間30分！

工夫して勤務時間内に
1人当たり通常よりも30分の空き時間
を作ってください

約束

判断遅延

突飛さ歓迎

質より量

他の人に便乗する

それができるなら、これも！

ヒント・例

- 1 交代できる仕事はありませんか？
合同で取り組むと一人分空く仕事はありませんか？
 - ・教材づくり
 - ・給食指導等
 - ・授業（授業の一部）
- 2 子どもに任せたり一緒にできたりする仕事はありませんか？
 - ・掲示等作業
 - ・行事・席替え
 - ・司会進行
- 3 その仕事、職員全員が集まる必要ありますか？
人数・回数は適正ですか？
 - ・職員朝会
 - ・生徒会
 - ・全校集会
- 4 それ、あなたでないとできない仕事ですか？
細分化したら分担できることはありませんか？
 - ・欠席確認電話
 - ・提出物チェック
 - ・印刷 配布
- 5 意味を考え直したいことはありませんか？
 - ・この指導は子どもの何を育てている？
 - ・学校の意義は？
 - ・このルールはなんのため？
- 6 時代に合っていないことはありませんか？
 - ・目的不明の規律 校則
 - ・教員の情熱が燃やせない学校教育目標
 - ・何でも紙ベース
- 7 新たな可能性を考えてみたいことはありませんか？
 - ・卒業
 - ・入学行事
 - ・ICT活用
 - ・授業の在り方
- 8 それって本当？
 - ・指導案の形式
 - ・学年の枠、学級の枠
 - ・給食当番を毎週変える
- 9 今、困っていることは？
 - ・学習
 - ・授業の改善
 - ・生徒指導
 - ・情報の共有
- 10 自分にとっては形骸化していたり無駄に思ったりするものではありませんか？
 - ・その交換ノートいる？
 - ・日頃思っていた効率化のアイデアは？
 - ・その指導はいる？
- 11 その他
 - ・研究授業はもっと楽しくできるのでは？
 - ・できた時間はこんなことに使いたい
 - ・日直いる？

時間予算確定タイム

実行に移すことを1つ決めて各自投票する。

アクション確定タイム

投票の際に

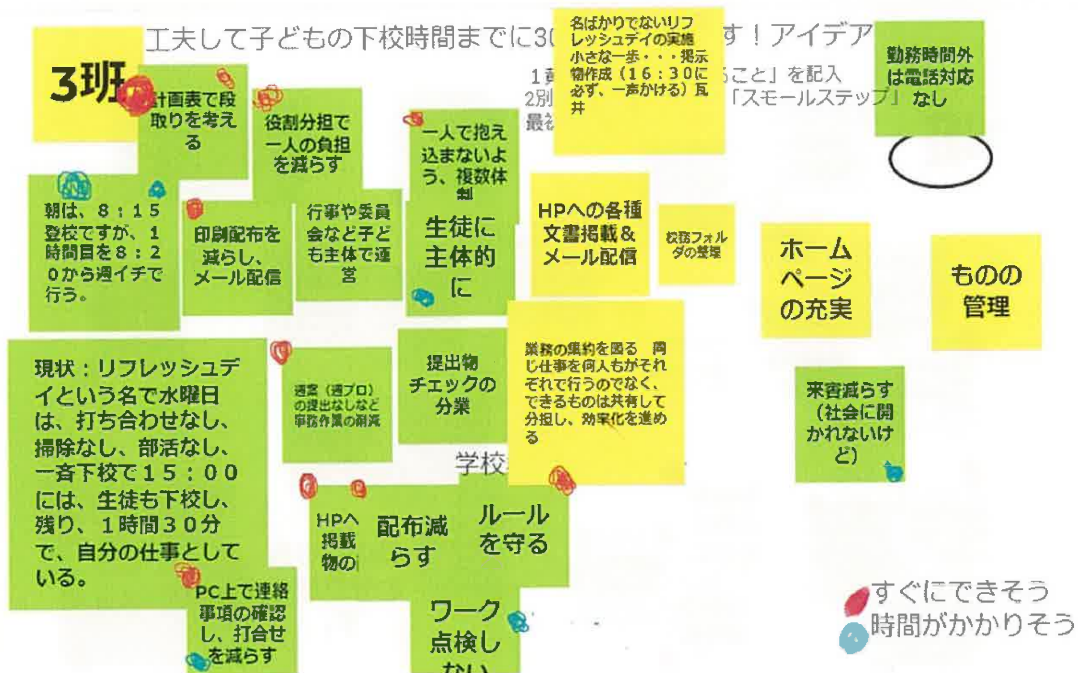
「小さな小さな一歩目」を
各自書き足しておく

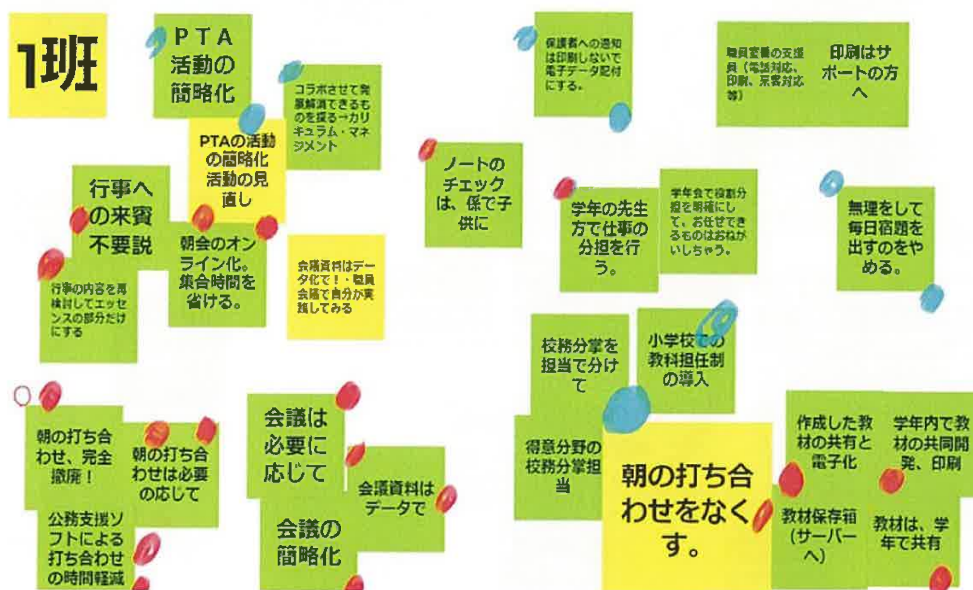
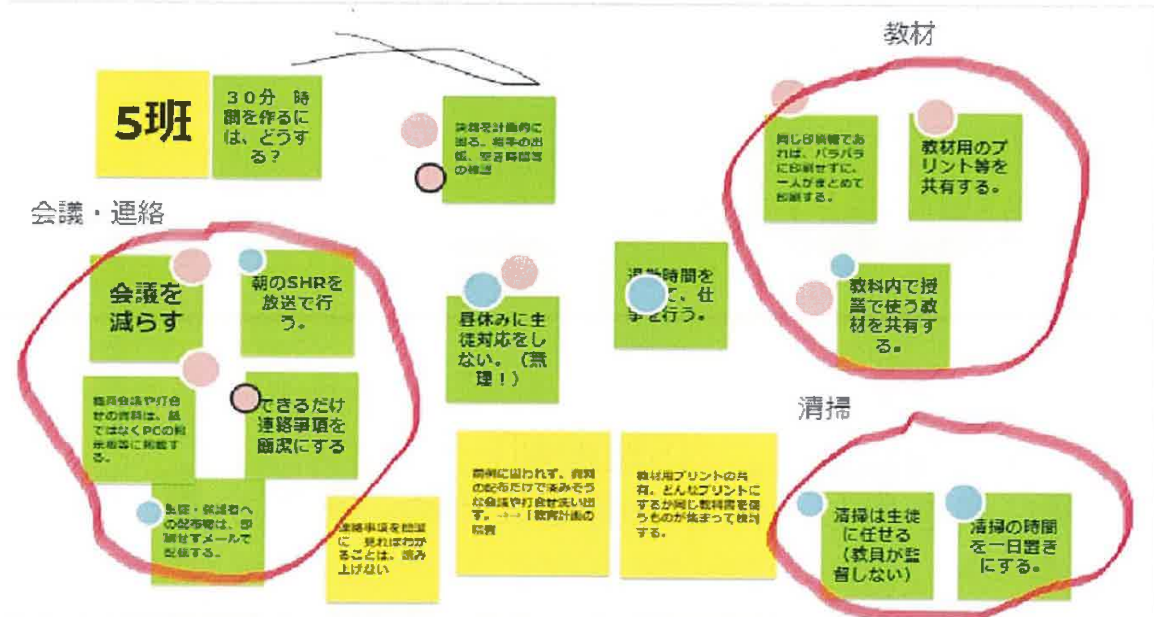
-
- ①実行に移すこと
 - ②小さな小さな一歩目
 - ③1ヶ月後までに、ここまでする
 - ④チームメンバー名

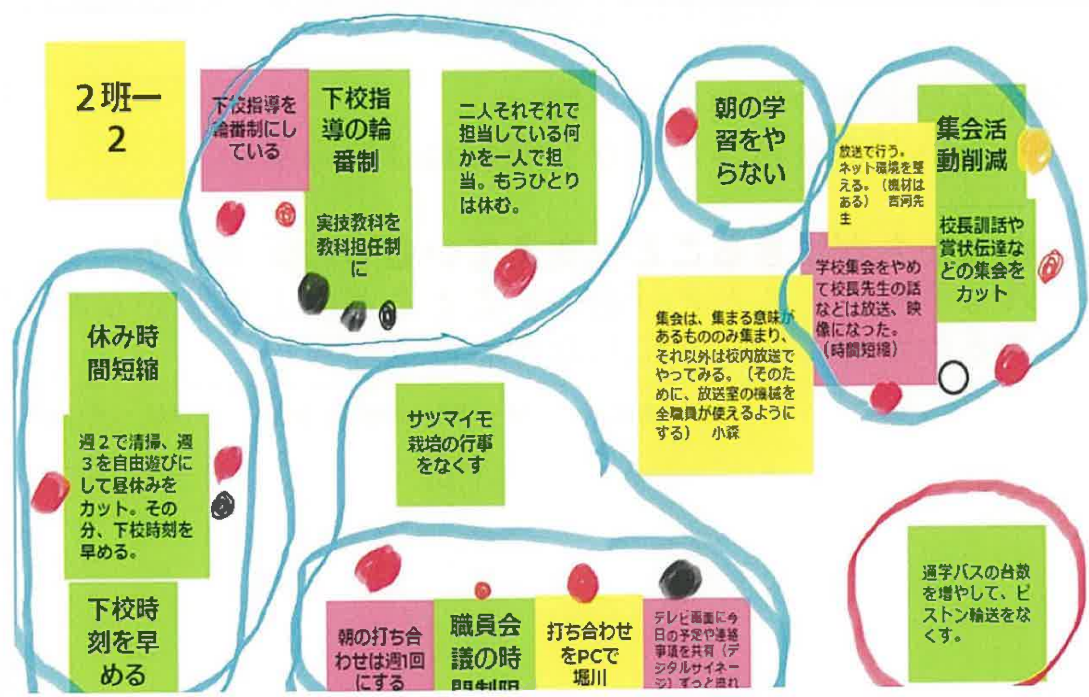
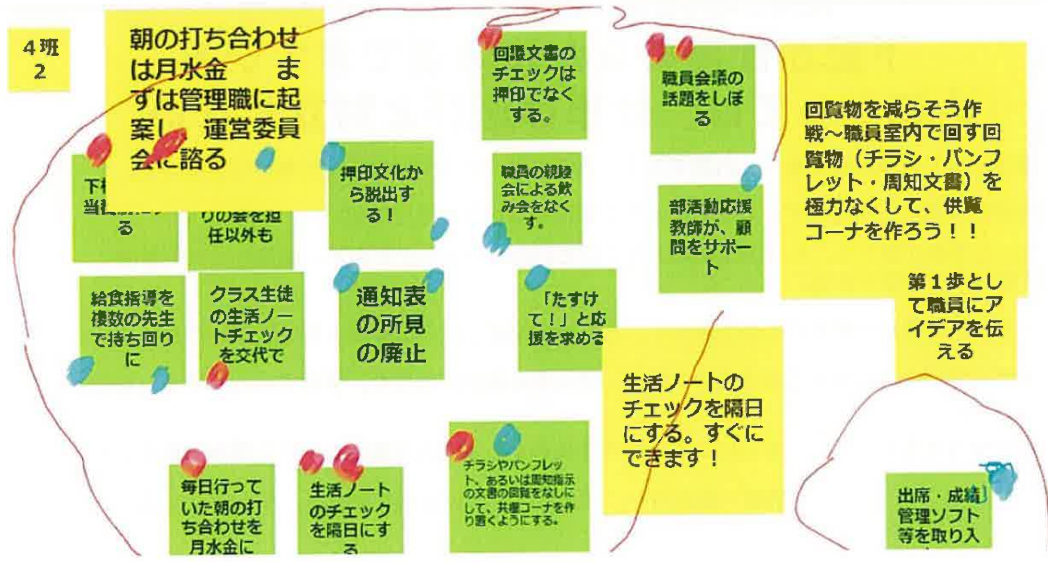
全体共有をする

県内の「業務改善研修」参加者により
時間ワークショップを行った。
その過程で話し合った
(Google Meet Jamboard)

- ①個人で考える。
- ②班に分け話し合う。(5班編制)
(付箋に書き出し、同じ意見をまとめ、分類する。)







だれのための仕事？

生きることを支えているものは何か？

仕事のやりがい
に焦点をあてる

だれのための仕事？

下記が仕事のなかに体現できている
人にとっては、仕事は遊びと対立しない。

問題はやはり仕事の質であり、内容である。あるいは、内容ではなく、仕事の仕方である。

労働時間の減少がかならずしも仕事のよろこびにつながるわけではない。

わたしたちの仕事から、かつて仕事のよろこびといわれたものがどんどん脱落してきた事実こそ着目する必要がある。

たとえば、仕事が一続きのものであって、その過程がばらばらに解体されていないこと。

仕事のみずから進んでおこなうものであり、他人から強制されたり、管理されたりするものではないこと。

仕事をやってもやらなくてもいいようなものではなく、生活の全重量をかけた営みであること。

引用 鷲田清一、『だれのための仕事』講談社、2018年、93頁。

「仕事」と「遊び」
「労働」と「余暇」
概念的な対比
二分法が非現実的ならば

窮屈な労働観や半端な遊び観は
いったいどこからきたのかを問わねばならない。

わたしたちが生きることを支えているものはなにか、
それは「働く」ことと「遊ぶ」こととどのようなかわり
があるのかを、明らかにしなければならない。

引用 鷲田清一、『だれのための仕事』講談社、2018年、12-13頁。

4 成果と課題

校内の業務改善研修

令和2年11月16日(月) 8:45~9:35

校務委員会のメンバーで行う

(校長・副校長・教務主任・各学年主任・保健主事・生徒指導主事

進路指導主事・学習指導主任・事務長)

(校長・副校長・河上、益子、手塚、加藤、細田、比田、齋藤、飯田、朝妻)

観 察・・・校長

司 会・・・瓦井

Aグループ 手塚(司会)・齋藤・朝妻

Bグループ 河上(司会)・加藤・飯田

Cグループ 益子(司会)・細田・比田

持参するもの 筆記用具

【先生の幸せ研究所 講師：上松恵子 氏 ・ 講師：津村美紀 氏】に、
この校内研修を、Google Meetで 参観していただき、アドバイスをいただく。

↓

本日のテーマ 時間予算ワークショップ

流 れ 50分間

- 1 ガイダンス(パワーポイント) 瓦井から 7分 8:45~8:52
基礎知識 パワーポイント

時間予算ワークショップ開始

お 題

工夫して子どもの下校まで、一人当たり通常よりも30分の空き時間を作ってください。

- 2 個人作業 5分 8:52~8:57
- 3 各グループで共有 10分 8:57~9:07
- 4 他のグループを見る 3分 9:07~9:10
- 5 個人 → グループ 10分 9:10~9:20
実行に移すことを決める
小さな小さな一歩目を決める
- 6 グループ発表(共有) 5分 9:20~9:25
- 7 アドバイス・フィードバック アドバイザー 10分 9:25~9:35

アドバイザー：上松恵子氏と津村美紀氏 とのメール配信の一部
宇都宮市立国本中学校_瓦井康司

作成 2020/11/16 2020/11/16

本日はありがとうございました。

時間予算ワークショップを、国本中の校務運営委員10名で行いました。

講師の先生からも良いアドバイス・フィードバックをいただき感謝です。

今後の勤務上で、生かしたいと思います。

結構、言いたいことを言う時間になって（突飛さ歓迎が良かったのかも）ただ、現実的にスモールステップとなる実践性という視点で考えてみると、どうだろうか、と、……。ということで、問題提起や、ある意味では共有できる「結びつき」のきっかけと なったみたいです。ありがとうございました。

国本中 瓦井

講師_上松恵子 2020/11/16

瓦井先生、ありがとうございました。

瓦井先生の「ほんの一步でいいから前へ」という言葉がけ、

「突飛なのを今日は大歓迎！」という雰囲気。

まさに、語りやすい、抜群の空気作りを画面上でさえも感じました。

今日は「結びづけのきっかけ」とまさにになっていたと感じた時間でした。

素晴らしい時間を朝からありがとうございました！

講師_津村美紀

作成 2020/11/16 2020/11/16

宇都宮市立国本中学校瓦井先生との個別相談2回目が終わりました。

瓦井先生進行のもと、50分の時間ワークショップを行いました。

3班でいろいろな意見が出されましたが、その中で各班1つ、取り組みたいことを決めました。

- ・A班：清掃を1週間に月・木
- ・B班：アンケート Web、印刷廃止、Web 配信、
- ・C班：給食指導

具体的なテーマが決まり、今後が楽しみです。

瓦井先生の明るく、活気あるリーダーシップにより、参加された先生方もざっくばらんに話が盛り上がり、「もっと話したい、もっと聞きたい」雰囲気がとてもありました。

これを機に今後もオフサイトミーティングを続けていただけたらと思います。

現在：本校で実践しているもの

- ・給食指導は当番制（学級担任だけの給食指導で無く、学年スタッフ全員で行う）
- ・リフレッシュ・デイの実施（毎週水曜日は部活動なしなので定時退勤を奨励）
- ・生徒の欠席・遅刻の連絡は、Google フォームから。
- ・教職員の出退勤時刻の記録は、全員パソコン画面上、ワンタッチで行う。

今後の課題

小さな一歩として実行に移そうと考えているもの

○「オフサイトミーティング」

- ・課題・・・方法・内容・場所等
- ・理由

教員のストレスや心労が増え、苦境な状況になるケースを乗り越えるため

また、課題を共有するなど意欲的に協働し、温かい人間関係が醸成されるため

「同僚性としてのチーム力の強化」のため

※堅苦しい雰囲気ではなく、本質的な改善のための意見が活発に出る状況をつくる。

【まとめ】

「働き方改革」とは、単なる労働時間（残業時間）を減らすだけでよい、という単純なものではない。生徒との向き合う時間が十分に確保されず、教育の質の低下にもつながることから、教職員の勤務環境の改善にさらに取り組む必要がある。その改善としては、やはり仕事の質であり、内容であり、方法である。また、働く理由として「経済性、社会性、個人性」の相互関係の中で、特に、個人性として「仕事の喜び」という点に着目していくことが課題になる。本来仕事は、自ら進んで（当事者性）行うものであり、他人から強制されたりするものではない反面、やってもやらなくてもいいものではなく、生活の全てをかけて営むものでもあるだろう。これらの問いかけを常に行いながら、なお一層、自校の課題発見とその分析・改善に努め、「スモールステップ」としての実のある実践を継続することが今後の課題となる。

